

# 事業計画及び成長可能性に関する事項

株式会社ペルセウスプロテオミクス

2021年6月

# 会社概要

## 企業理念

最先端の抗体技術で世界の医療に貢献する

## 事業内容

- 創薬（抗体医薬品の開発）
- 抗体研究支援
- 抗体・試薬販売

**社名** 株式会社ペルセウスプロテオミクス

**設立** 2001年2月

**拠点** 本社：東京都目黒区駒場四丁目7番6号  
ラボ：愛知県名古屋市千種区

**資本金** 1,924百万円（上場日現在）

**従業員** 22名（研究開発部17名、管理部5名）2021年6月現在

## 取締役



**横川 拓哉**（代表取締役）

富士フィルム医薬品研究所長（創薬研究）  
同社医薬品事業部次長（臨床開発・事業開発）



**鈴木 信一**（管理部長）

KDDIグローバルICT本部長  
テレハウスヨーロッパ社長  
KDDI海外拠点社長等



**松浦 正**（研究開発部長）

信州大学医学部  
米国Dartmouth大学医学部  
通産省工業技術院生命工学工業技術研究



**小南 欽一郎**（テック&フィンストラテジー代表）※

英国王立がん研究所  
野村證券、みずほ証券



**伴 寿一**（富士フィルム 執行役員）※

武田薬品工業（臨床開発）  
米国駐在15年（事業開発）



**花井 陳雄**（島津製作所 社外取締役）※

協和キリン（代表取締役社長、会長）  
ポテリジェント技術開発・導出

## 取締役（監査等委員）



**三輪 和生**

KDDI グローバル事業本部 東アジア統括拠点長



**浜窪 隆雄**（日本医科大学教授）※

京都大学医学部  
元東京大学先端研教授、医師  
当社創業メンバー



**堀内 正**（慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター教授）※

第一三共創薬開拓研究所長  
アスピオファーマ常勤監査役

## 技術顧問



**石川 冬木**

京都大学 大学院生命科学研究所教授  
日本学術会議 連携会員



**津本 浩平**

東京大学 大学院工学系研究科教授  
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所、  
創薬デザイン研究センター センター長

※ 非常勤

- 1 ヒト抗体医薬品の開発を目指す創薬ベンチャー
- 2 独自のプラットフォーム技術で新機能抗体を開発
- 3 膜蛋白質の立体構造、コンプレックスを認識する抗体を作製可能
- 4 がん領域に強いパイプラインを構築

# ビジネスモデル

アカデミアのシーズを当社技術で開発し、製薬企業への導出により、医薬品として患者さんに提供。

## 創薬 (抗体医薬品)

抗体作製  
研究受託  
配列解析

アカデミア

共同研究、研究支援、抗体・試薬販売



研究シーズ、人脈

強固なネットワーク

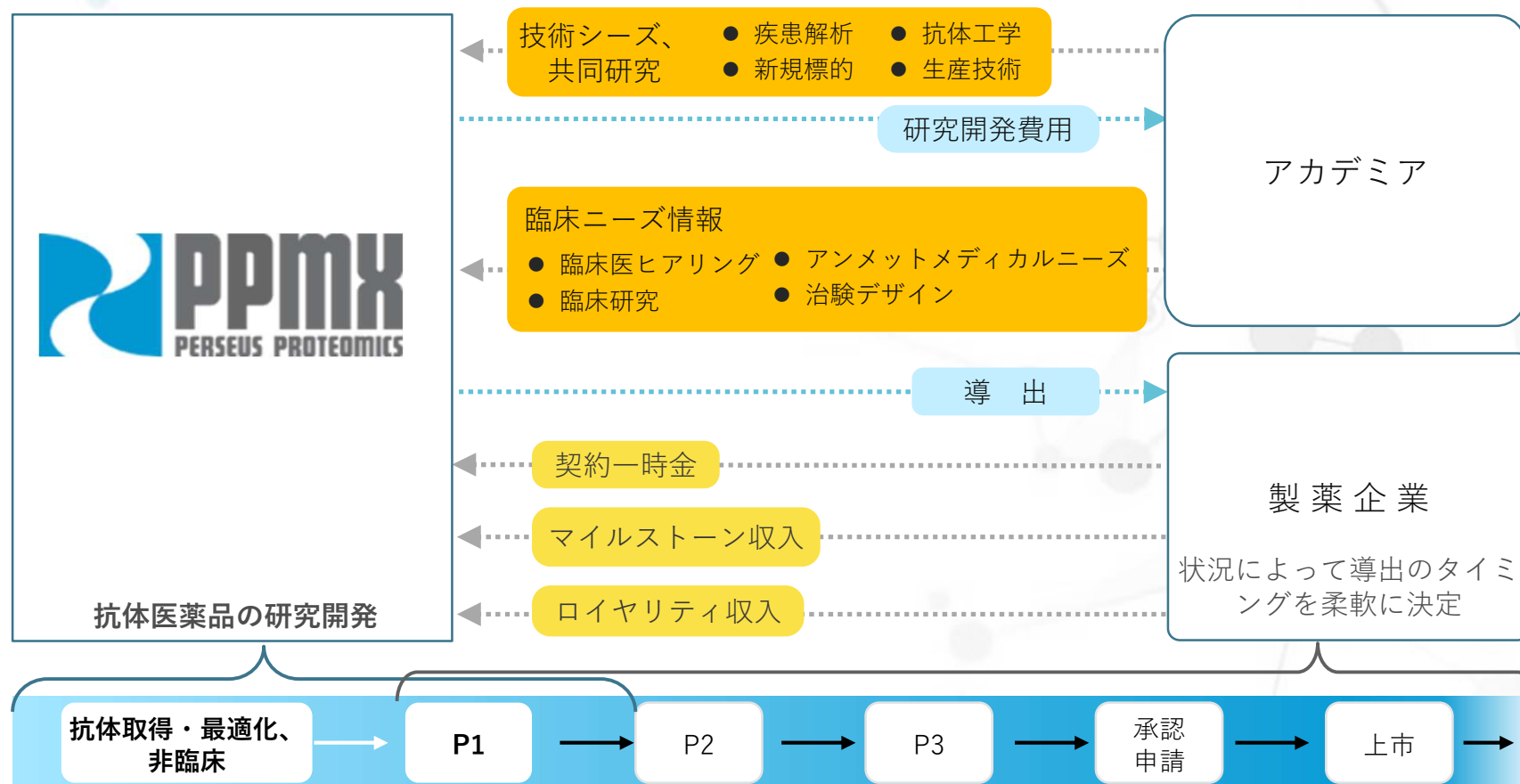
抗体販売  
試薬販売

当社抗体技術でアカデミア等の研究を推進。ネットワーク強化と売上げにも寄与。

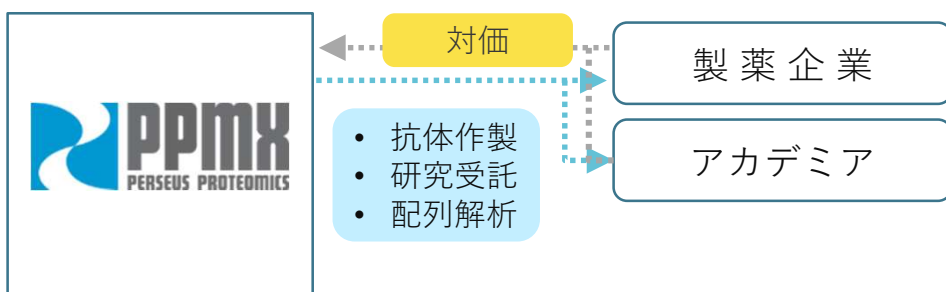
生命科学・医薬品や抗体の基礎研究に必須の核内受容体抗体等を世界の研究者に提供。安定的な売上げにも寄与。

# 事業の収益構造

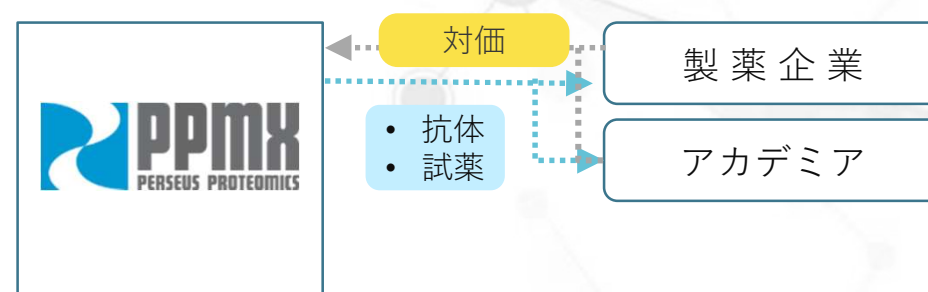
## 1. 創薬



## 2. 抗体研究支援



## 3. 抗体・試薬販売





# パイプラインの進捗

当社コード	対象疾患	権利	地域	創薬研究	非臨床試験	P1	P2	P3	導出先	詳細
PPMX-T002	固形がん	全世界	米国 日本	2011/1 導出 局所放射線療法剤			2020/4 ~日本でP1実施中 2019~ 米国でP1 expansion実施中		富士 フィルム	P2相当 (P1 expansion) 進行中
PPMX-T003	血液がん	全世界	日本			2019/11~ 日本でP1実施中			-	自社開発 (P1実施中) 健常人P1を終了、 PV患者へ投与準備中
PPMX-T004	固形がん	全世界		2015/9 導出 ADC					富士 フィルム	非臨床試験前
PPMX-T001	肝臓がん	全世界	日本 台湾	2006/9 導出 単剤				免疫療法剤への転換	中外製薬	抗体単剤はP2 効果未達だが ・ 免疫チェックポイント阻害剤との併用 ・ バイスペシフィック (抗体結合部分を活用) の2つが進行中
					免疫チェックポイント阻害剤と併用	2016/8~ 日本でP1実施中				
	固形がん	全世界	米国 欧州 日本	バイスペシフィック			2019/8 米国でP1終了、 日本でP1実施中			

PPMX-T001の特許は2022年に有効期限を迎えます。中外製薬株式会社との契約の存続期間は、対象となる抗GPC3抗体の特許権の存続期間であり、当該特許権の存続期間が2022年です。このため、契約期間中にマイルストーンが達成できず、想定した回収額を得られない可能性があります。

# PPMX-T002

標的：カドヘリン3 (CDH3) 導出先：富士フィルム

## CDH3

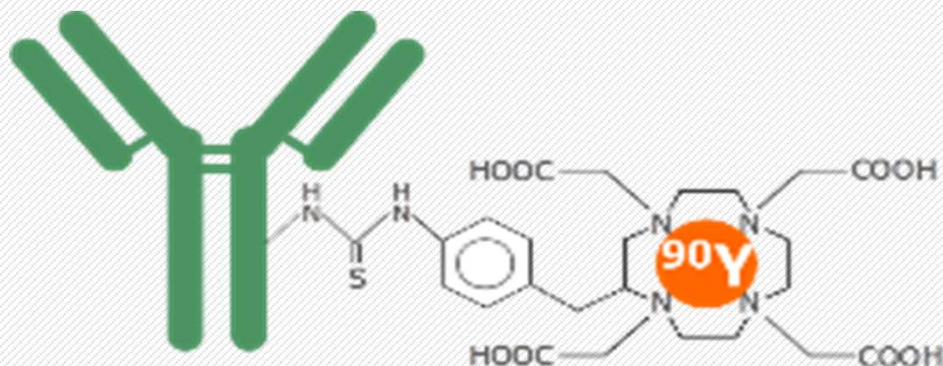
非常に多くのがんで高発現する膜タンパク質  
(胆道がん、卵巣がん、頭頸部扁平上皮がん等)

がん部位に集積する抗体に  
ラジオアイソトープを結合した  
局所放射線療法剤

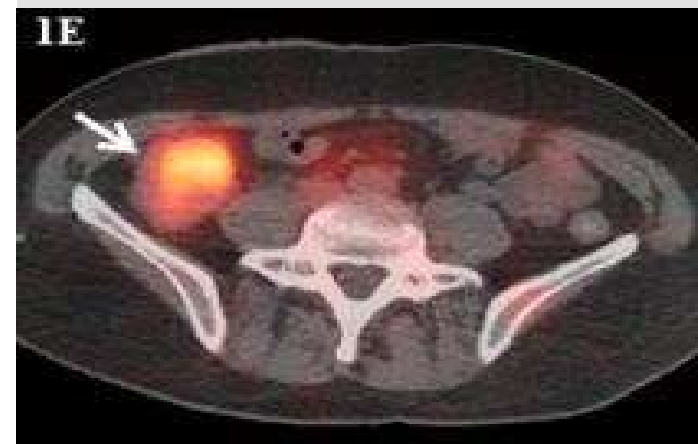
CDH3抗体



ラジオアイソトープ



消化器がん転移患者での本剤投与  
撮像例



抗体

がん部位に  
集積する



放射  
線

がんに対する  
既知の効果

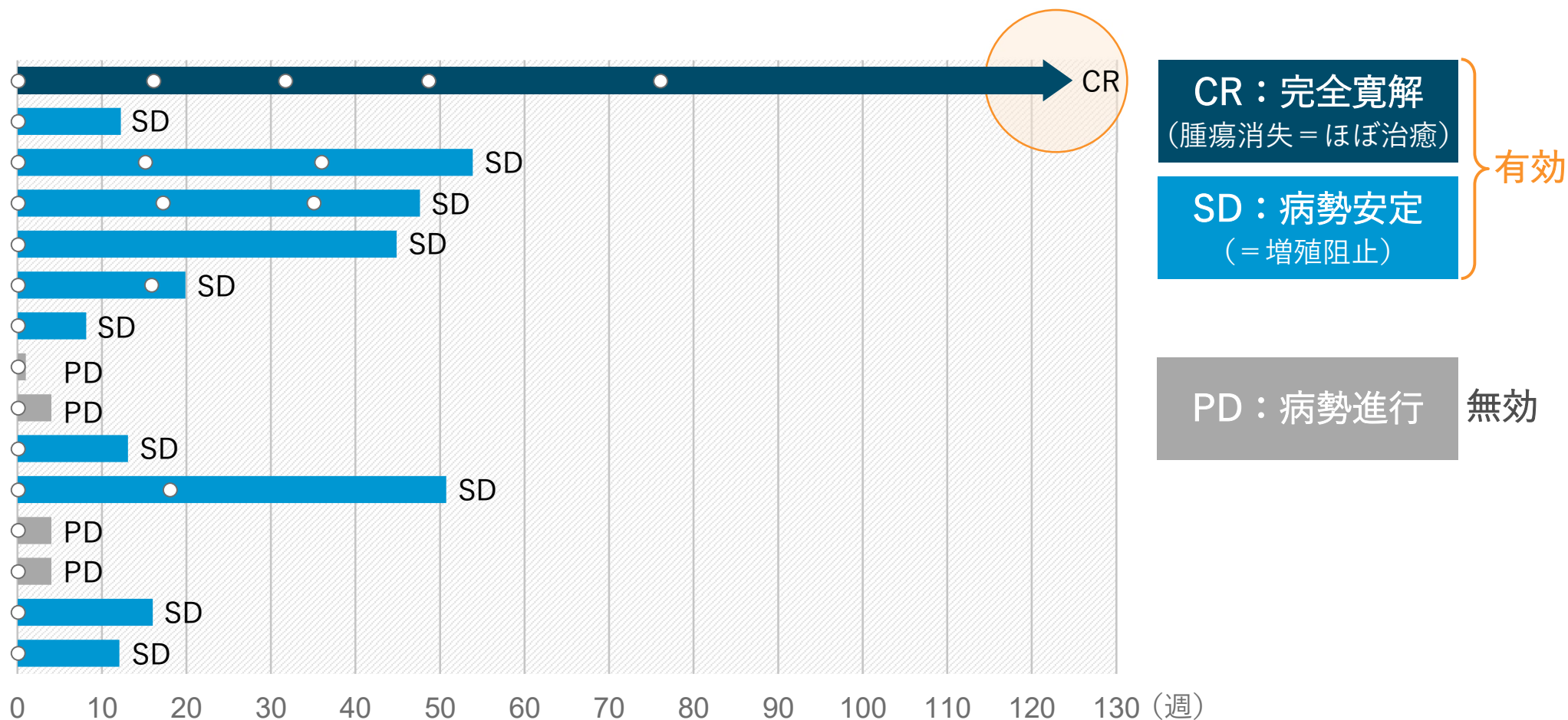


患者さんにやさしい抗がん剤

全身で副作用が生じる従来型低分子薬とは異なる治療薬

# PPMX-T002の開発状況 (1)

- 富士フィルムでの薬剤コード=FF21101 Radioimmunotherapy (RIT; 放射線免疫療法)
- 米国P1 expansion/CR-1例、SD-10例 学会発表済み、論文投稿中



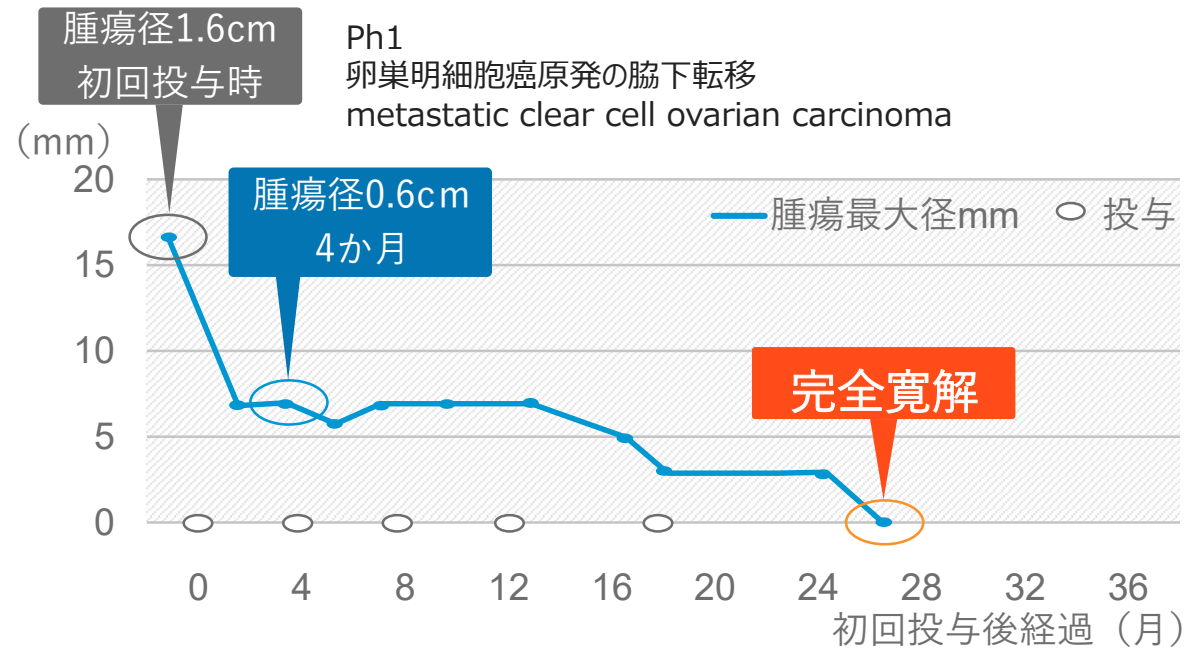
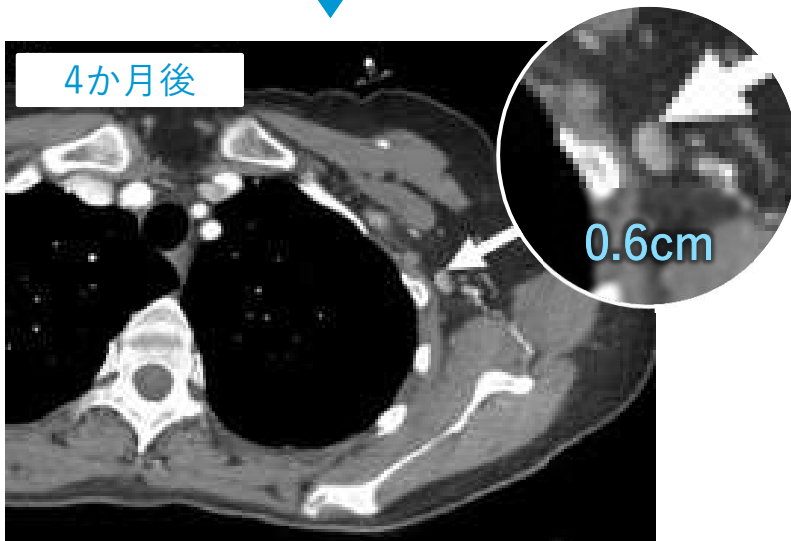
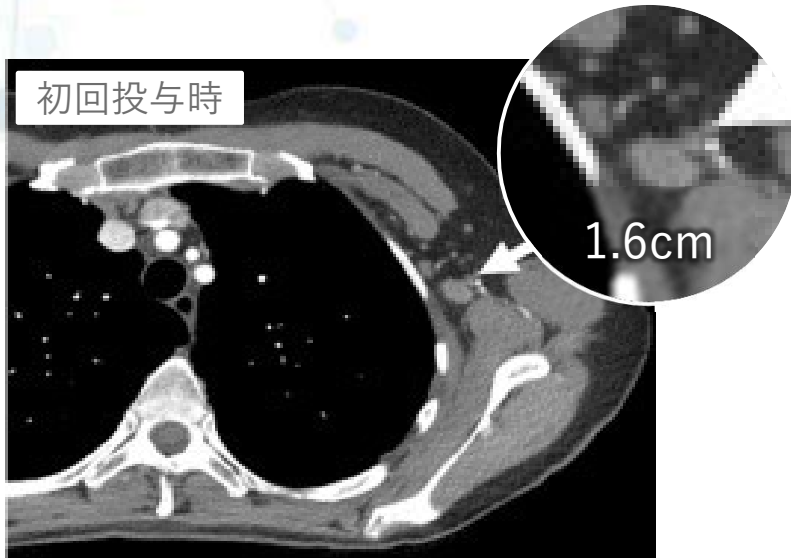
末期がん患者11/15例で治療効果を確認

# PPMX-T002の開発状況 (2)

2016/1 - 2019/3: 米国 MD アンダーソン  
がんセンターにてP1実施

2019/3: P1 expansion=P2相当開始

2020/4: 国内でP1開始



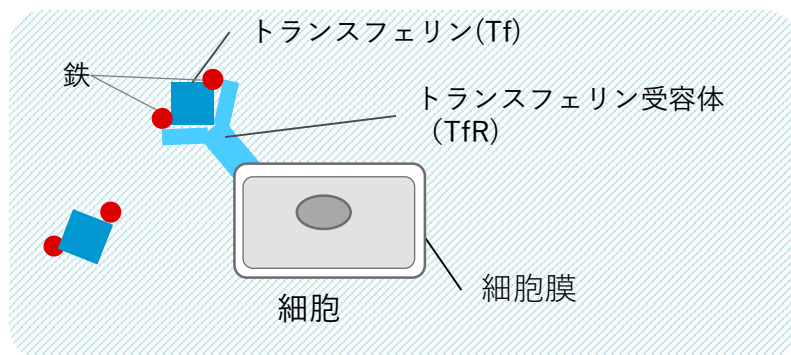
治療法のない再発予後不良患者 (Stage IV)で完全寛解

# PPMX-T003

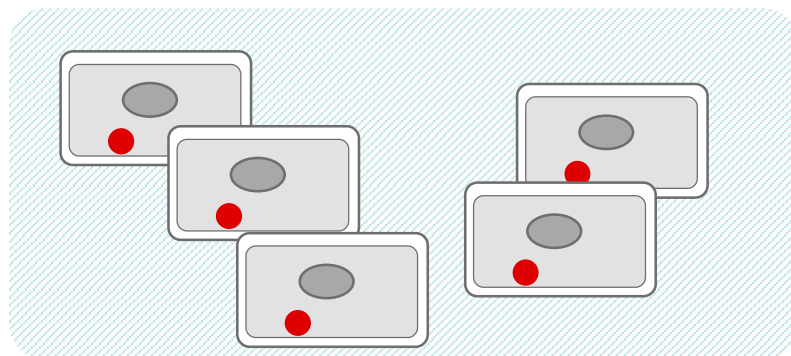
## トランスフェリン受容体に作用するがん治療薬候補

トランスフェリン受容体 (TfR) = がん治療薬の標的  
細胞膜上に発現。鉄を抱えたトランスフェリン(Tf)と結合し、細胞内に鉄を取り込む

### 1 TfRとTfが結合



### 2 細胞が増殖



### TfRが高発現する細胞

1. 赤血球産生細胞 (赤芽球)
2. がん細胞

#### 公知の概念

**鉄の遮断**  
⇒ **細胞死・増殖抑制**

※ 赤芽球：赤血球のもと

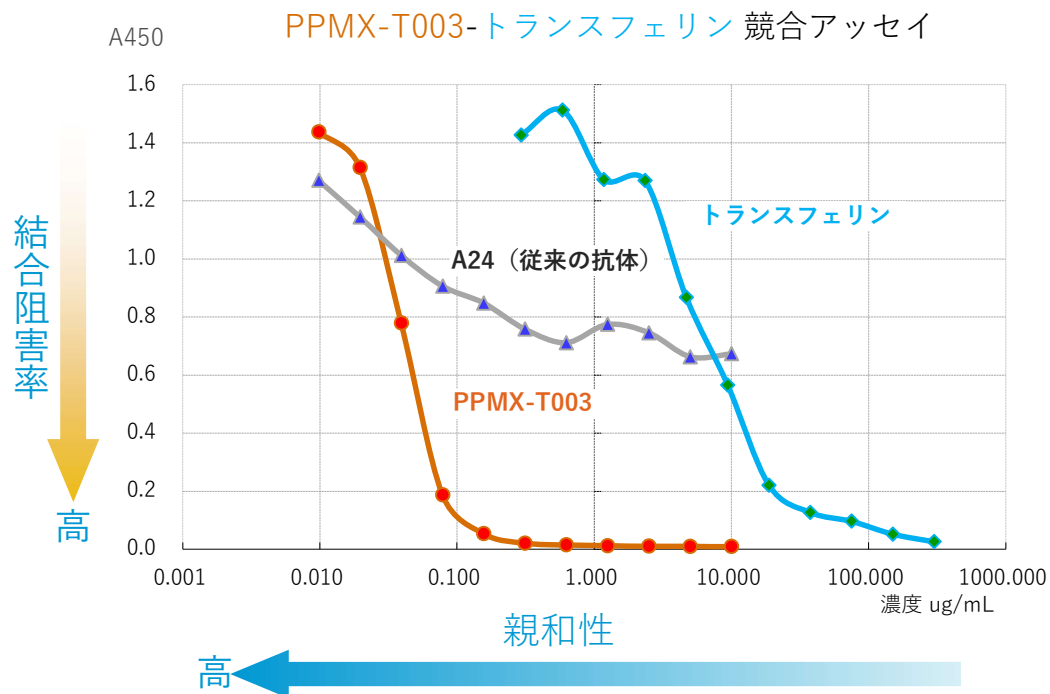
細胞内への鉄の取り込みを阻害すればがん細胞は細胞死・増殖抑制

# PPMX-T003

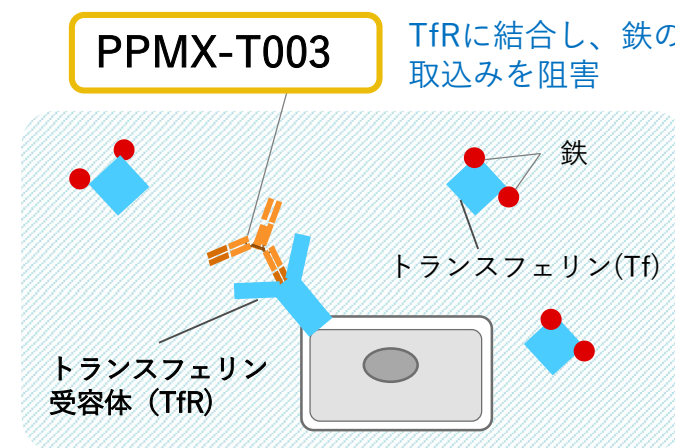
## 鉄の取り込みを阻害しうる抗体医薬品候補

TfとTfRの結合阻害率で良好な数値を提示

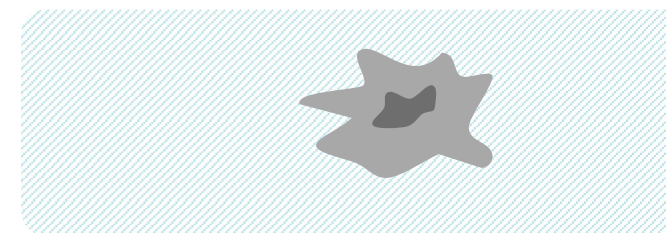
赤芽球とがん細胞への鉄の取り込みを遮断し、細胞死・増殖抑制へ



1 PPMX-T003はTfよりも早く強くTfRと結合



2 鉄の取込みが阻害され、細胞死・細胞の増殖抑制

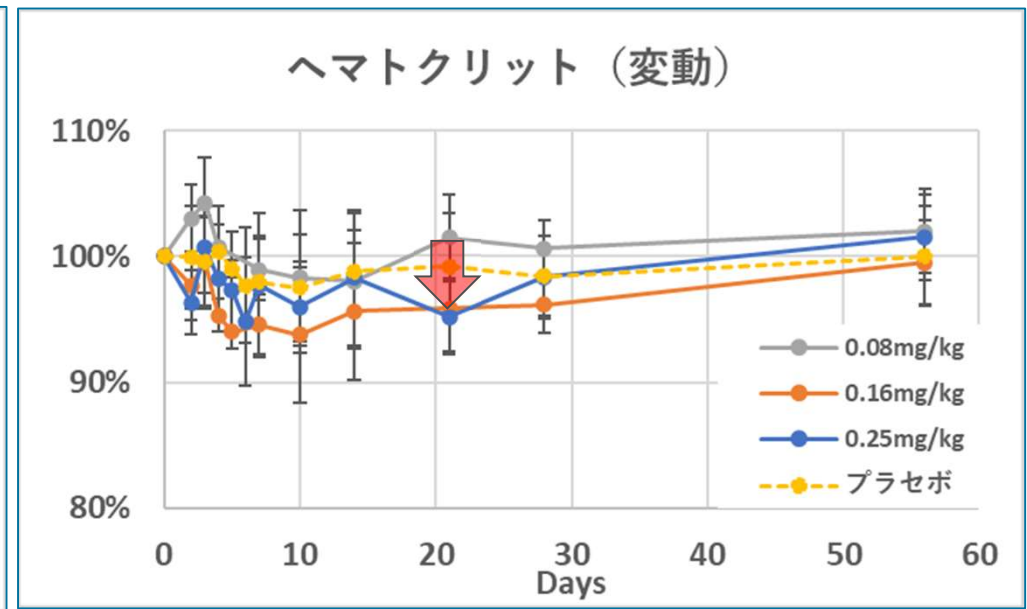
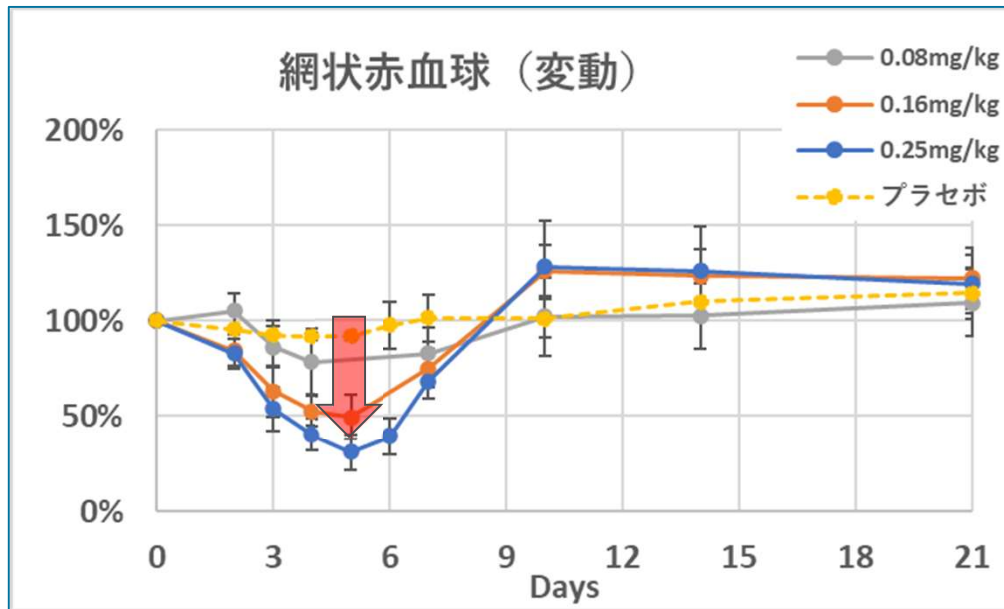


これまで鉄の取込み阻害は困難だったがPPMX-T003は初めてこれを実現する

公知の概念を実現可能にしうる抗体医薬品候補

# PPMX-T003の開発状況

## 健康人のP1の結果（1ドーズ6名、内プラセボ2名）



PPMX-T003作用で網状赤血球を低減。その結果、ヘマトクリット(赤血球割合)が減少（PV患者さんの過剰な赤血球を減らし正常化が見込まれる）

**ヒトで網状赤血球およびヘマトクリット減少を確認（動物実験結果をヒトで再現）**

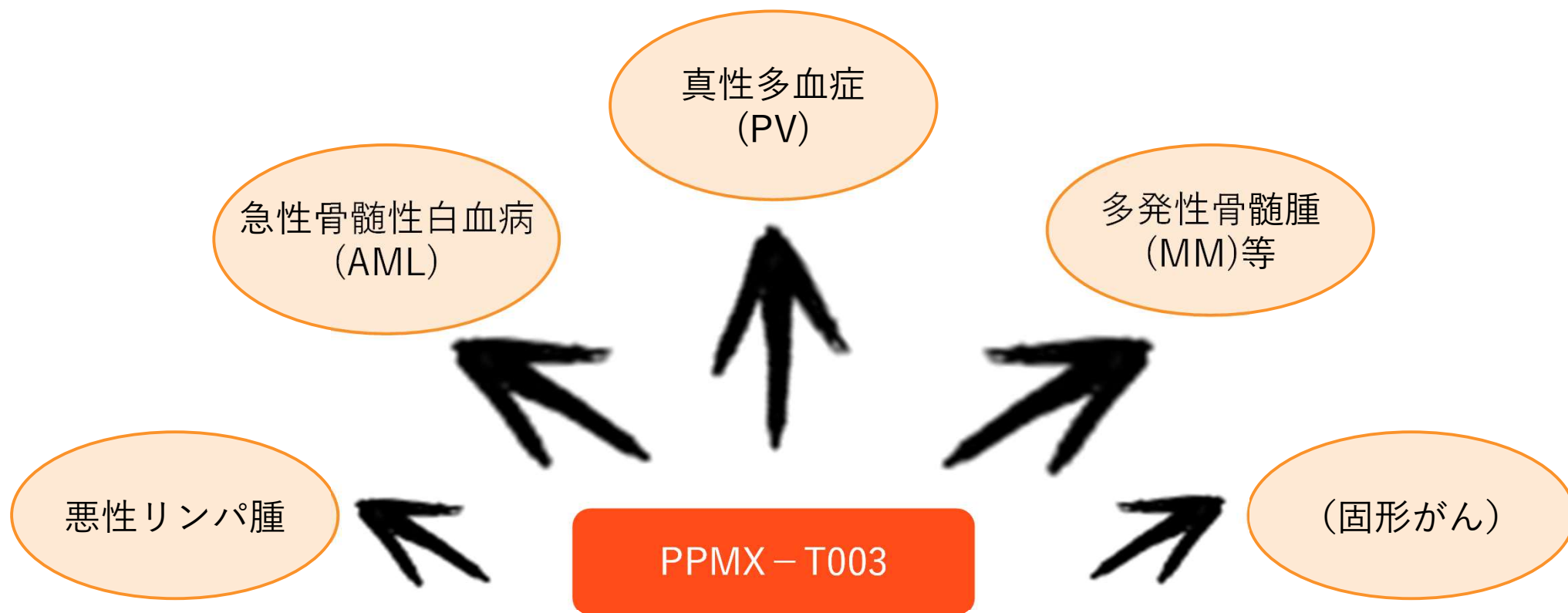
# PPMX-T003

対象疾患：真性多血症ほか各種血液がん幅広く対応

まず真性多血症(PV：Polycythemia Vera)で第Ⅰ相試験実施中

## PVとは

- 血液中の赤血球が異常に増える病気
- 血液が濃くなり、流れが悪くなるため血栓ができやすい → 様々な臓器で血栓が問題となる
- 発症率：10万人あたり2人が発症。患者数3万人（平均余命16年）



AML、悪性リンパ腫等の治療薬として適用拡大が期待

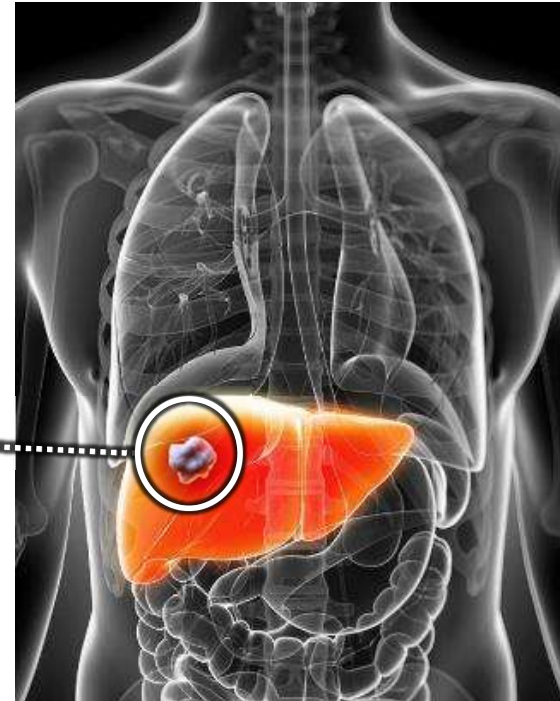
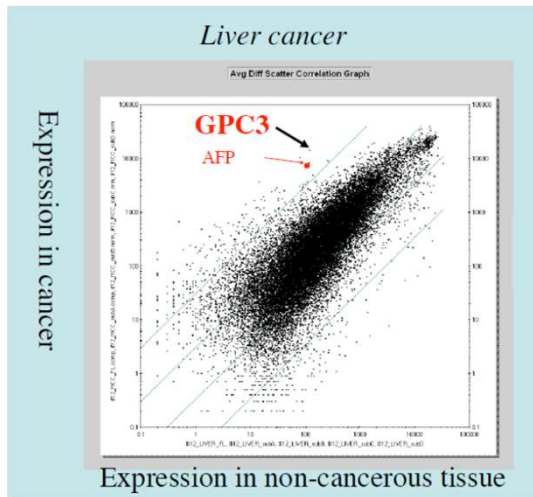


# PPMX-T001

標的：グリピカン3（GPC3）、導出先：中外製薬

## GPC3

肝がん細胞で特徴的な膜タンパク質

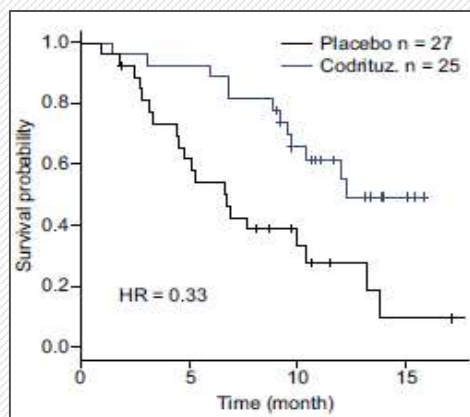


肝がんは再発率が極めて高く、効果的な薬剤が少ない

肝がん細胞で特徴的なGPC3蛋白質を標的とした抗体医薬品

# PPMX-T001の開発状況

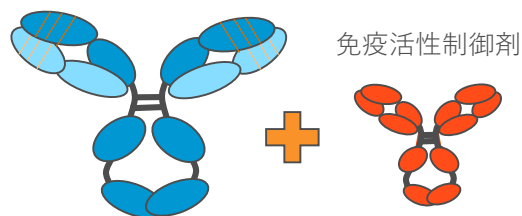
ヒト化抗体単剤：  
エフェクター機能が充分発揮されな  
かったが、  
(clinicaltrial.gov; NCT01507168)



免疫活性を指標にして解析すると、  
生存期間が延長している  
**肝臓がんに対する効果を確認した**  
(J Hepatol. 2016 Aug;65(2):289-95.)

## 免疫療法剤として開発

免疫活性を高める薬剤との併用



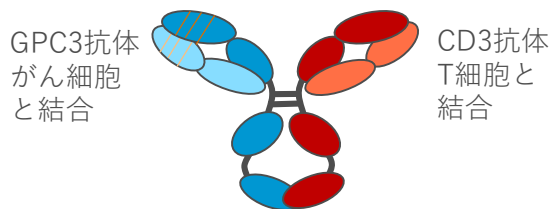
### 1 免疫活性制御剤との併用

Phase I 実施中(JapicCTI-163325)

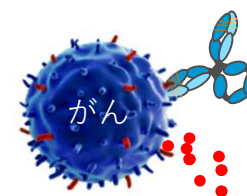
### 中外製薬が治験中

### 2 バイスペシフィック

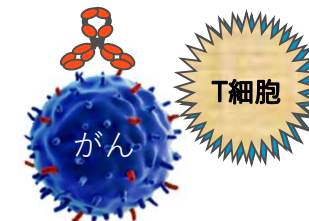
Phase I実施中(JapicCTI-194805)



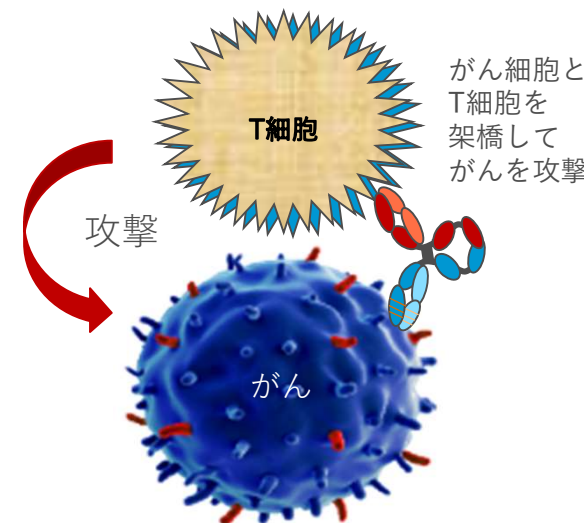
ヒトの免疫力を取り込む抗体の  
構造改変によって薬効を強化



GPC3抗体は  
ADCC活性で  
癌細胞を攻撃し  
癌の目印を放出



阻害抗体で  
免疫ブレーキを  
外されたT細胞が  
更にごんを攻撃



PPMX-T001は免疫療法剤としての開発が進捗

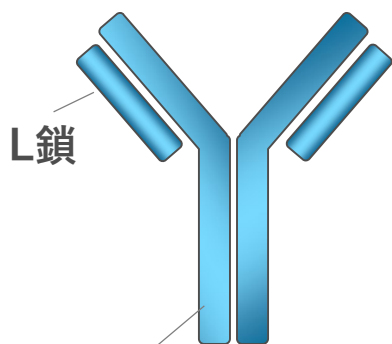
# 市場環境

# 抗体医薬品とは

抗体は自然界で生命を守っている  
 抗体医薬品は、副作用の少ない医薬品として高いニーズ

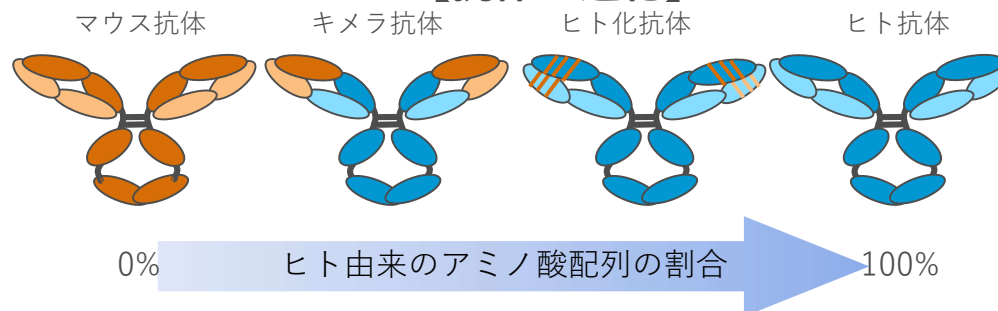
## 【抗体のしくみ】

L鎖とH鎖各一对で構成



H鎖：親和性・特異性に重要

## 【抗体の進化】

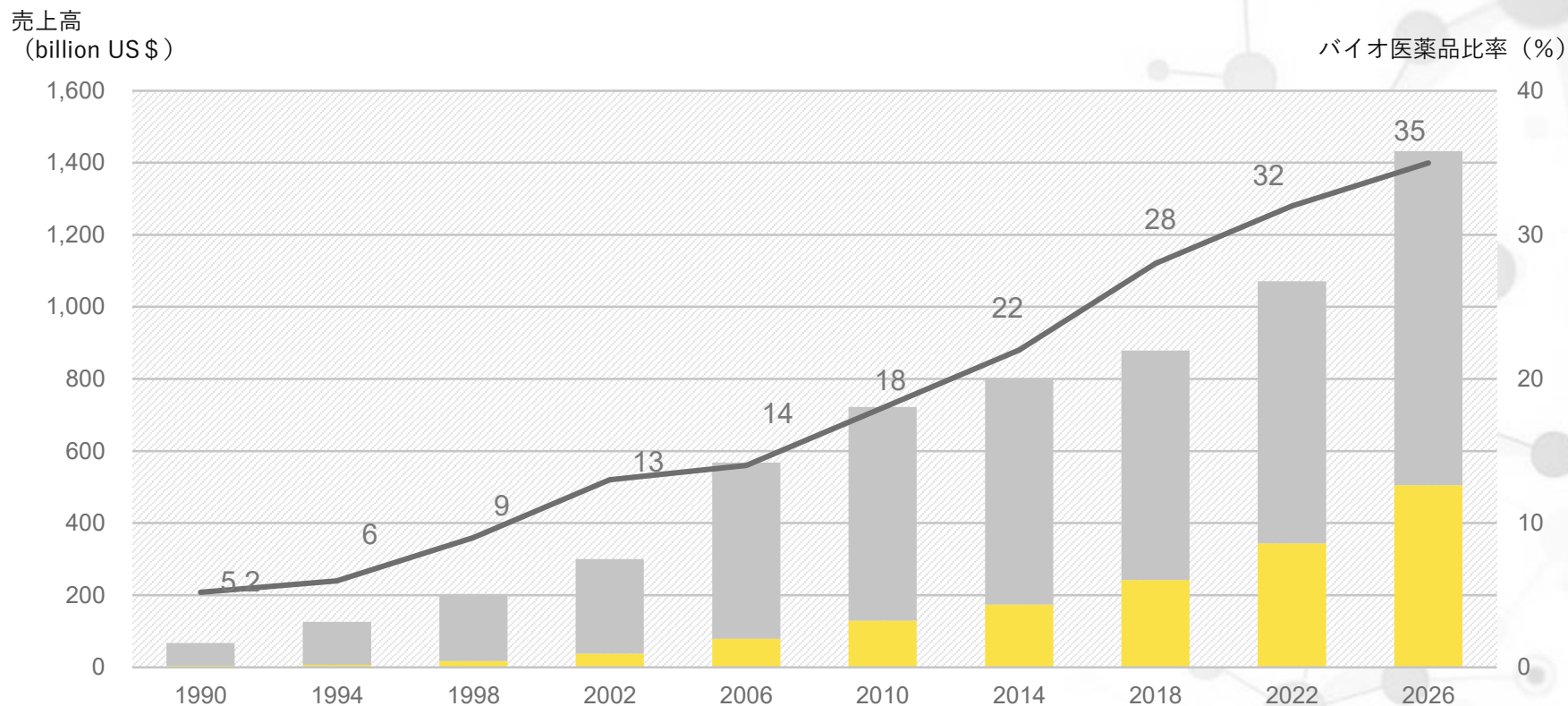


ヒト抗体・ヒト化抗体医薬品が増加

近年ヒト化抗体・完全ヒト抗体の開発が増加

## ● 医薬品中のバイオ医薬品の割合

— バイオ医薬品比率   ■ バイオ医薬品以外   ■ バイオ医薬品



\* バイオ医薬品：生物を用いて製造される抗体、タンパク質、核酸等

世界の医薬品市場で抗体医薬品が占める割合は年々増加

# 抗体探索におけるファージディスプレイ法の活用

1990年 抗体医薬探索法としてファージディスプレイ技術の活用を提唱

ヒト抗体の取得が可能

## ● 2019年度世界の医薬品売上高トップ10

	名称	売上高 (百万ドル)	適応疾患 ／形態
1	ヒュミラ	19,734	リウマチ／抗体
2	エリキュース	12,149	抗凝固／低分子
3	キイトルーダ	11,084	がん／抗体
4	レブラミド	9,378	がん／低分子
5	イムブルビカ	8,085	リウマチ／低分子

	名称	売上高 (百万ドル)	適応疾患 ／形態
6	オプジーボ	8,005	がん／抗体
7	アイリーア	7,989	加齢黄斑／バイオ
8	エンブレル	7,194	がん／バイオ
9	アバスチン	7,115	がん／抗体
10	イグザレルト	6,934	抗凝固／低分子

ファージディスプレイ法で開発

2002年 承認  
2012年～ 売上高世界一

ファージディスプレイ法を用いた抗体医薬開発が世界で進行

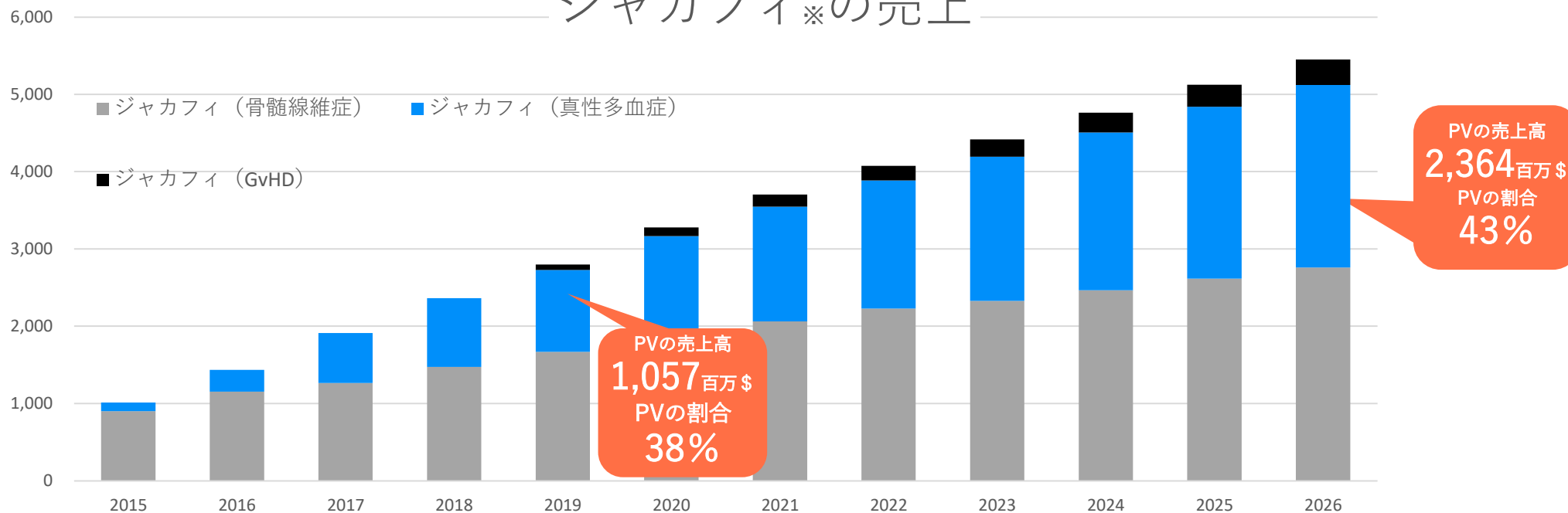
抗体医薬品開発でファージディスプレイ法の活用が顕著に

# 自社開発抗体PPMX-T003 PV競合薬との比較・市場性

	治療方法	対象	メリット	デメリット
①	瀉血	PV患者の約半分	薬剤不使用	鉄不足に伴う貧血等のQOL低下
②	ハイドレア	①で治療不十分な患者	実績豊富	2次がんのリスク、種々の副作用
③	ジャカフィ※	①②で治療不十分な患者	脾腫の改善	貧血や血小板減少等の副作用
★	PPMX-T003	①と②の代替	低副作用が期待	脾腫改善等は期待できない

(million US \$)

## ジャカフィ※の売上



## ジャカフィ※に並ぶ真性多血症治療薬候補

# 競争力の源泉



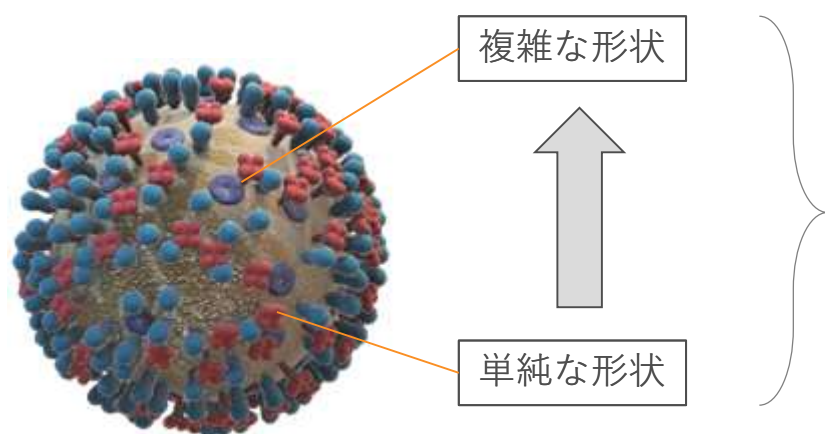
# 今求められる抗体作製技術

抗原と抗体の反応は「鍵穴」と「鍵」に例えられる。



鍵穴（蛋白質）の複雑さに応じて鍵（抗体）作製難易度が変化する。

抗体医薬品の標的として細胞表面蛋白質を狙うことが多い。

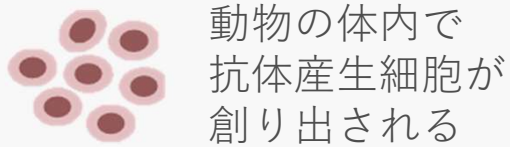


## 現在の課題

複雑な形状をもつ蛋白質には重要な標的が多数あり、医療ニーズがあるにも関わらず手つかずになっている。

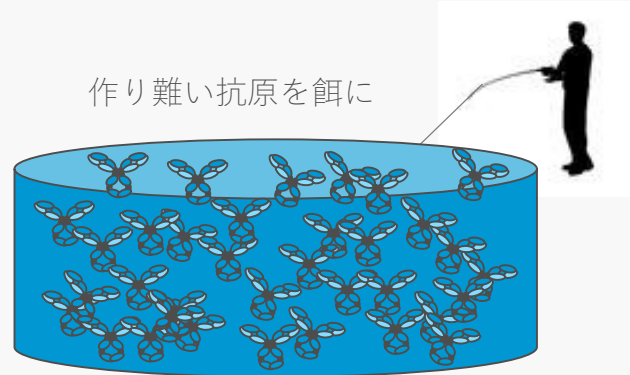
複雑な形状の標的に対して効率的な抗体取得技術が求められている

## 標的を動物に免疫 (ハイブリドーマ法)

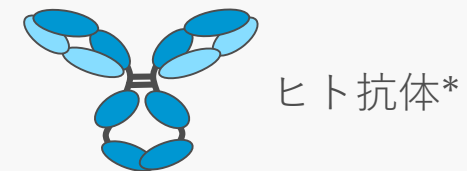


比較的簡便に作成可、しかし難しい標的は苦手

## 標的で抗体を釣り上げ（取得） (ファージディスプレイ法)



1000億種類の抗体が入ったプールの中から独自の技術で目的の抗体を釣り上げ（取得）




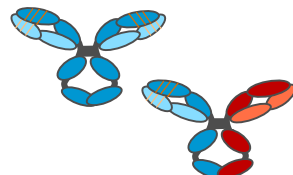

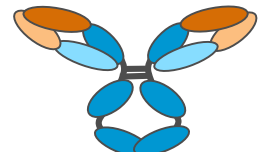

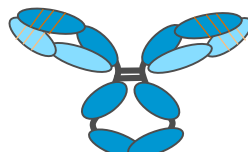
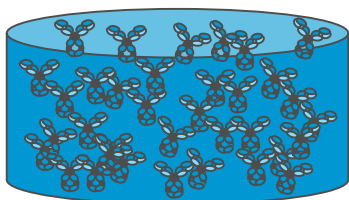
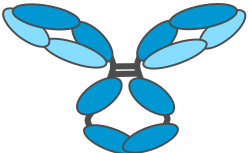
高度な技術が必要、しかし難しい標的も可能

## がん治療薬に向けてハイブリドーマ法からファージディスプレイ法へ技術展開

\*人に投与するためには、この後ヒト型に遺伝子組換えを行う

\*このままの形でヒトに投与出来る

# 各パイプラインと抗体作製技術との関係図

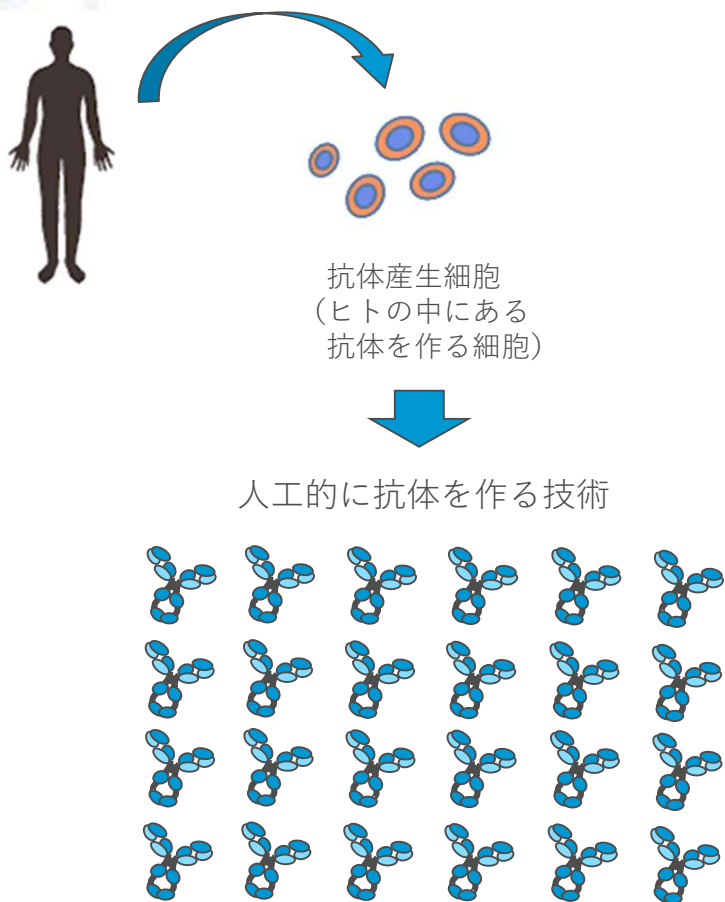
当社コード	抗体取得法	作製	抗体	標的
PPMX-T001	ハイブリドーマ法  免疫	中外製薬	ヒト化  Bispecific	GPC3: ・作り易い ・細胞の増殖に関わる機能を持つ蛋白質 ・肝がん細胞表面に多く存在する
PPMX-T002	ハイブリドーマ法  免疫		キメラ  配列ヒト化率:70%	CDH3: ・作り易い ・細胞同士を結合する機能を持つ蛋白質 ・肺、卵巣がんなど多くの固形がん細胞の表面に多く存在する
PPMX-T004	ハイブリドーマ法  免疫	自社	ヒト化  配列ヒト化率:90%	
PPMX-T003	ファージディスプレイ法 		ヒト  配列ヒト化率:100%	TfR: ・作り難い ・細胞の増殖に必要な鉄分を取り込む機能を持つ蛋白質 ・特に血液がん細胞の表面に多く存在する

抗体取得技術を高度化させ難易度の高い標的抗原に対応

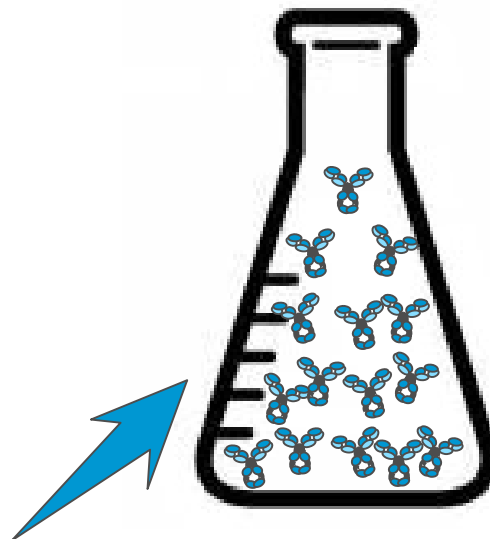


# 実用的なファージ抗体ライブラリ

ヒトファージ抗体ライブラリを使えば、こんなことができる。



ヒトファージ抗体ライブラリ  
1,000億種類の抗体集団



ヒトファージ抗体ライブラリ



特定の条件に合致した集団を  
すくい上げる。



任意の相手に結合する抗体を  
釣り上げる。



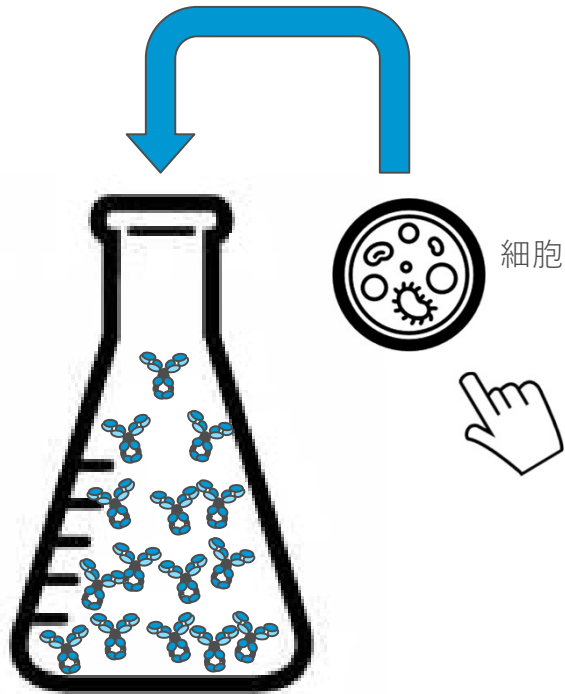
特殊な相手に結合する抗体を  
見つけ出す。

当社のファージ抗体ライブラリの特徴

- 多くの抗体の中から目的に沿って選び出せる。
- すべてヒト由来の抗体なので安心。
- H鎖重視のライブラリ構成で親和性の高い抗体を取得できる。

多くの抗体を含んだライブラリから効率的に抗体を取得

細胞を使う当社独自の方法（ICOS法）



ヒトファージ抗体ライブラリ

## 問題点

従来のスクリーニング方法では細胞に対して非特異的に反応する抗体が残ることが知られている。



## 当社の抗体スクリーニング技術（ICOS法）

有機溶媒を用いる独自の方法を見出し、細胞をそのまま使いつつも、非特異抗体を除去することが可能。

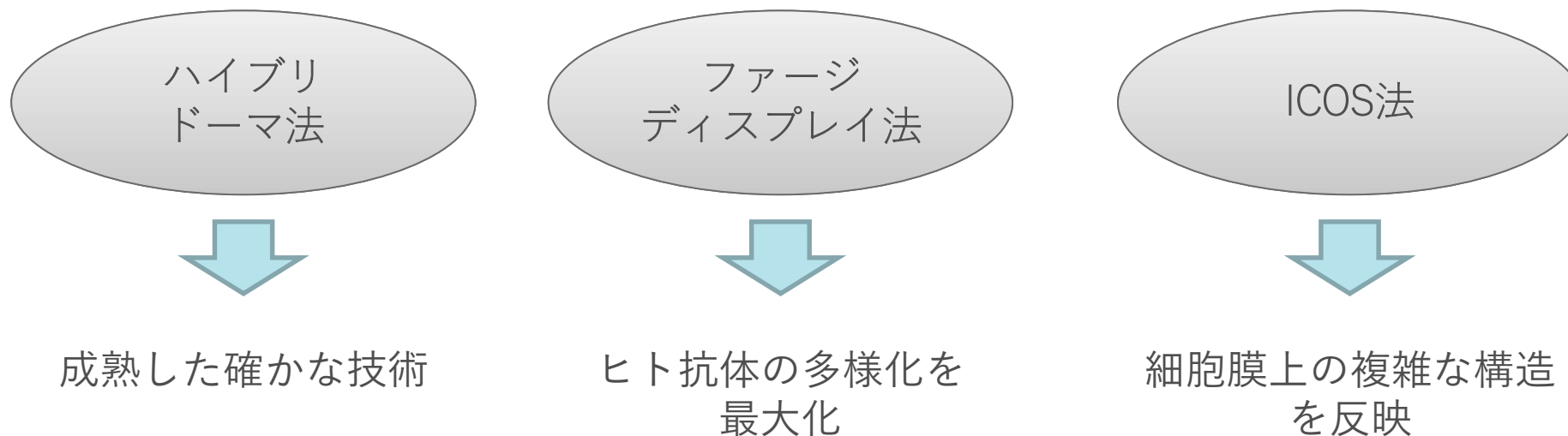
## 特徴

- 細胞をそのまま使うことで複雑な形状の蛋白質にも対応できる。
- 特殊な条件（有機溶媒）で抗体選び出すことができる。この条件で選ばれた抗体は優れた反応性をもつ。
- 様々な細胞で抗体取得の実証済み。

正しい立体構造を標的にすることで、機能阻害抗体を効率的に単離

## 抗体医薬品開発 に関する当社の考え方

難易度の高い標的で創薬を目指すために  
独自の技術プラットフォームを磨いてきた



がん治療薬の開発に真価を発揮

ペルセウスプロテオミクスの抗体作製プラットフォーム

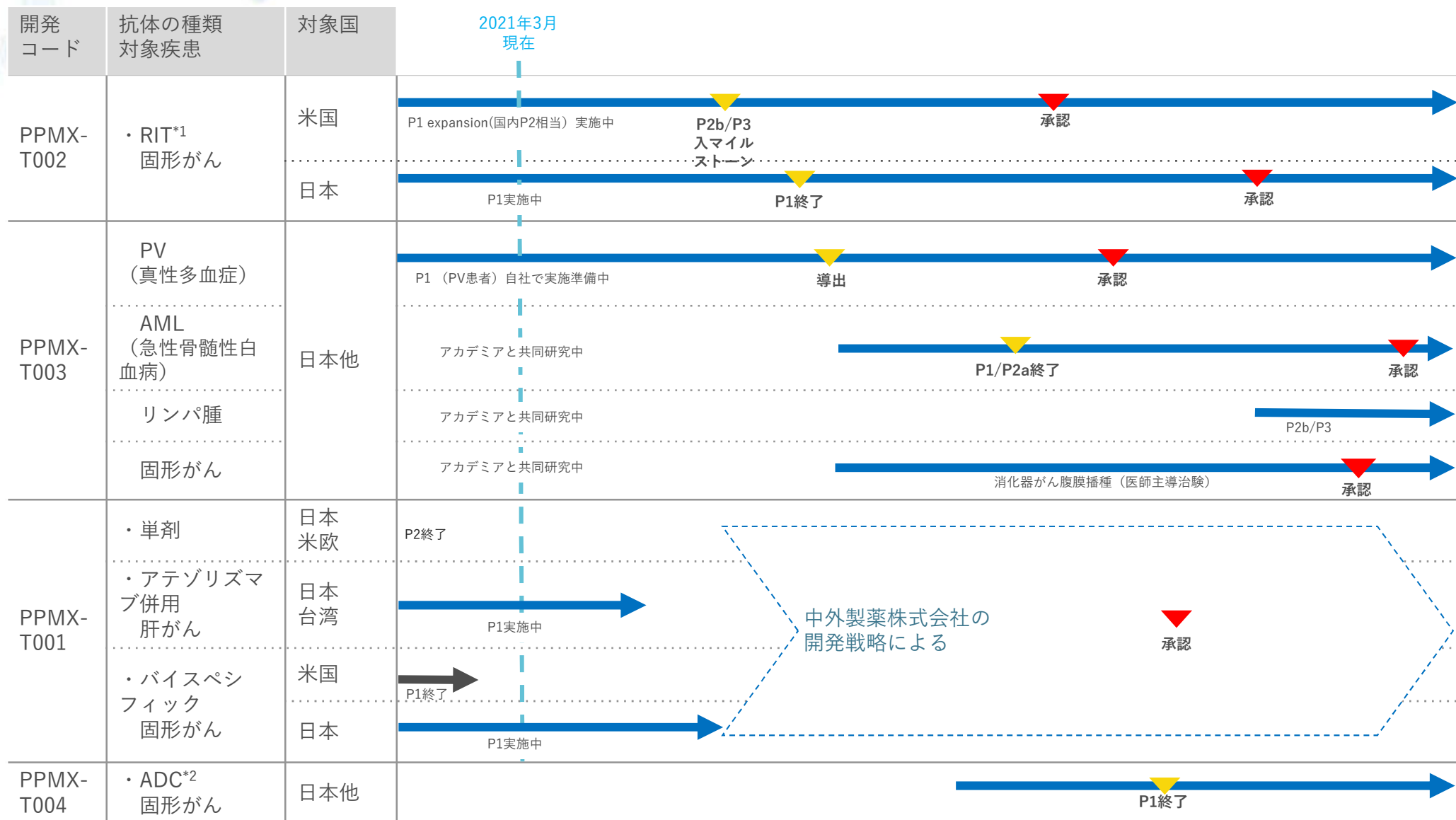
	特許権の名称 (取得済又は出願中の別)	出願番号	登録年月日 登録番号	存続期間 満了日	内容・特徴
PPMX-T002	放射性金属標識抗カドヘリン抗体	特願2011-553868 PCT/JP2011/052759	2013年10月4日 JP5380553	2031年2月9日	癌細胞特異的に高集積する放射性金属標識抗カドヘリン抗体、さらにこれを含む癌治療薬及び癌診断薬に関するもの
PPMX-T003	トランスフェリン受容体抗体	特願2012-066535	2016年5月27日 JP5939855	2032年3月23日	抗TfR抗体を含む医薬組成物、特に悪性腫瘍の治療に関わる医薬組成物に関するもの
	トランスフェリン受容体を特異的に認識できる抗体	特願2013-514005 PCT/JP2012/061676	2016年8月5日 JP5980202	2032年5月7日	
	トランスフェリン受容体を特異的に認識できる抗体	特願2014-545766 PCT/JP2013/080249	2017年9月22日 JP6212497	2033年11月8日	
PPMX-T004	高い内在化能力を有する抗CDH3抗体	特願2012-540965 PCT/JP2011/074958	2016年9月16日 JP6006640	2031年10月28日	薬物を修飾した抗CDH3抗体、特に悪性腫瘍の治療に関わる医薬組成物に関するもの
	抗CDH3(P-カドヘリン)抗体の薬剤コンジュゲート	特願2014-508962 PCT/JP2012/059236	2017年3月24日 JP6113717	2032年4月4日	
	抗CDH3ヒト化抗体、その薬剤コンジュゲート、及びそれらの使用	特願2015-500306 PCT/JP2014/053473	2018年8月3日 JP6377601	2034年2月14日	
ICOS法	細胞表面抗原に対する抗体の取得とその抗原同定	特願2004-349783	2011年11月25日 JP4870348	2024年12月2日	抗体ライブラリから細胞表面に結合する抗体をスクリーニングするための方法

● PPMX-T003：上記の他に4件特許出願中

# 事業計画



# (1) 成長戦略



\*1: Radio-immunotherapy (放射線免疫療法) の略。放射性核種で標識した抗体を患者さんに投与し、これを腫瘍に到達させて腫瘍を殺傷する治療法。

\*2: Antibody Drug Conjugate(抗体薬物複合体)の略。抗体に連結された強力な細胞傷害活性を持つ薬物により、細胞を殺傷する。

※PPMX-T001の特許は2022年に有効期限を迎えます。

※この表は当社想定によるもので、記載どおりに進行することを保証するものではありません。

※導出後のすべての開発は、導出先企業の開発戦略によって決定されます。

# (1) 成長戦略 より多くの抗体医薬品を患者さんの元へ

～高い機能性を持つ抗体医薬品を目指して～

これからの抗体医薬品

ペルセウス  
プロテオミクス

PPMX-T005

PPMX-T006

PPMX-T007  
⋮



高次構造に  
基づく抗原

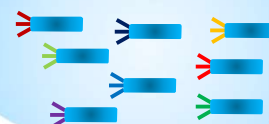
PPMX-T003

一歩先を行く抗体医薬品の開発

高難易度抗原

技術的な参入障壁による  
“ブルーオーシャン”

M13ファージ



中難易度抗原

製薬企業各社による  
“激しい開発競争”

現在の抗体医薬品

立体構造に  
基づく抗原

PPMX-T002/004

PPMX-T001

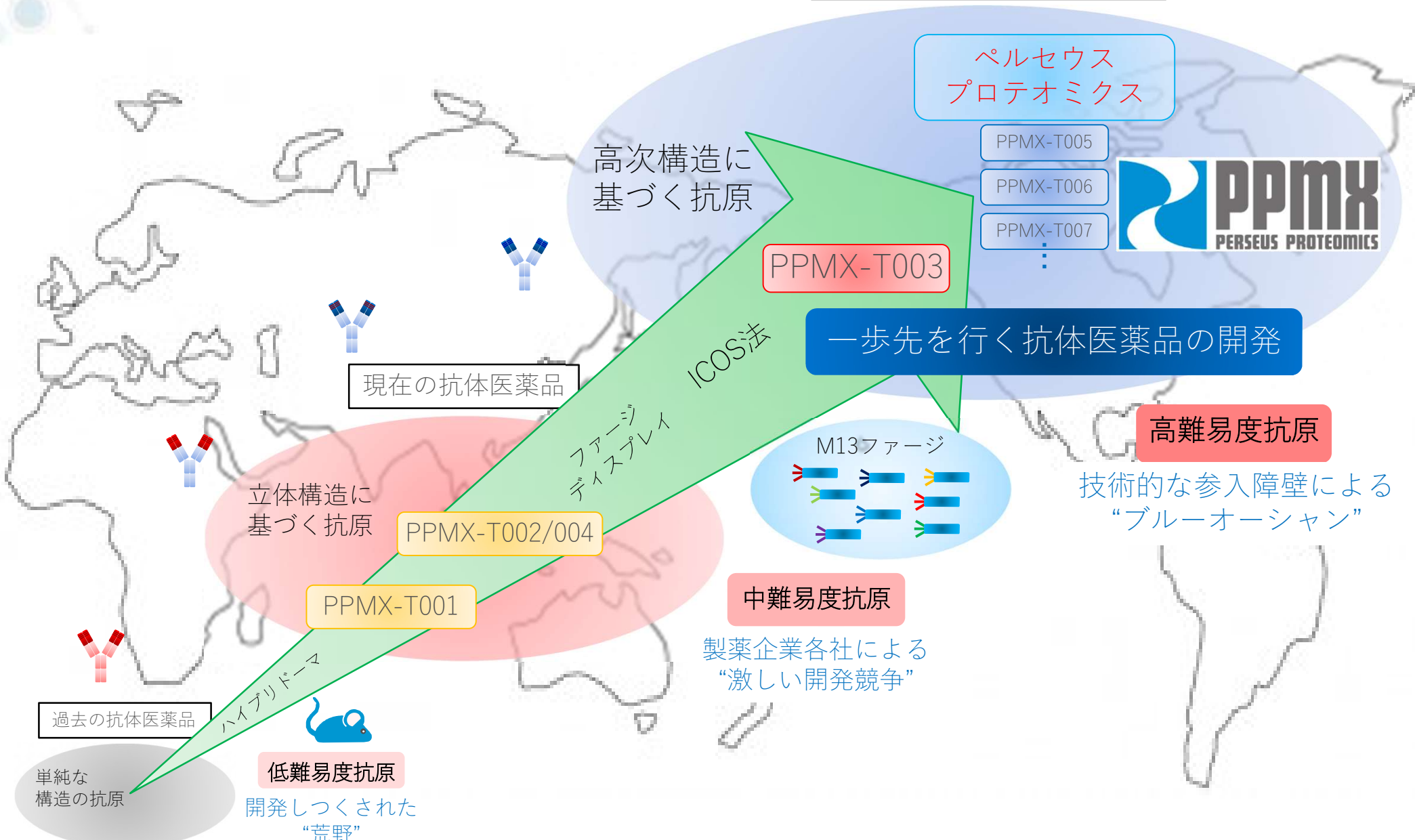
ハイブリドーム

低難易度抗原

開発しつくされた  
“荒野”

過去の抗体医薬品

単純な  
構造の抗原

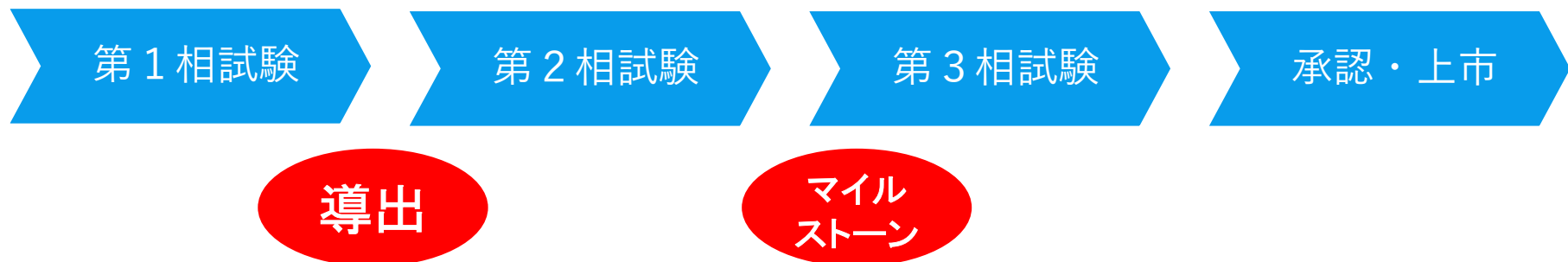


## (2) 経営指標

当社における導出時の契約一時金とその後の継続的なマイルストーン等の収入は、当社又は導出先における研究開発の進捗に大きく左右されます。

そのため、当社では、ROA(総資産利益率)やROE(自己資本利益率)といった数値的な目標となる経営指標ではなく、将来の売上に繋がるパイプラインの開発の進捗、パイプラインの拡充及び売上高を重要な経営指標として、事業活動を推進しております。

【パイプラインの開発の進捗】



パイプラインの開発の進捗については、「ビジネスモデル パイプラインの進捗」をご参照ください。

### (3) 利益計画及び前提条件

## PPMX-T003 PV患者さん第Ⅰ相試験に注力

(単位：百万円、%)

項目	決算期	2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (予想) ※	対前期 増減率
売上高		67	70	3.3
販売費及び一般管理費		475	630	32.4
研究開発費		313	411	31.2
人件費		90	111	24.1
その他		72	107	48.2
営業損失 (△)		△411	△564	—
経常損失 (△)		△410	△583	—
当期純損失 (△)		△413	△625	—

売上高：新型コロナウイルス感染症の影響で売上は、落ち込みましたが、2022年3月期は、若干の回復を見込んでおります。

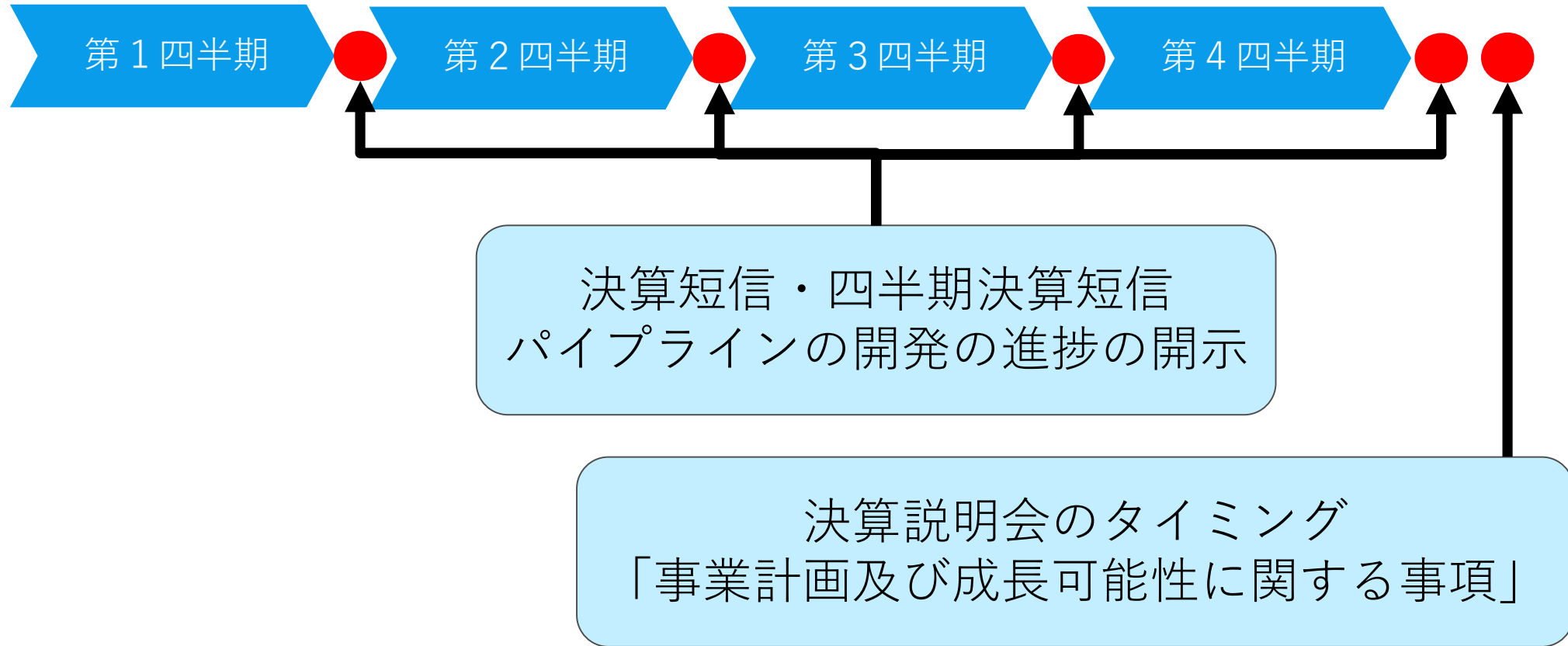
販売費及び一般管理費

研究開発費：PPMX-T003 PV患者さんの第Ⅰ相試験を開始し、その費用を見込んでおります。

その他：株式上場関連費用等の増加を見込んでおります。

※2021年6月22日開示「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う決算情報等のお知らせ」より抜粋。

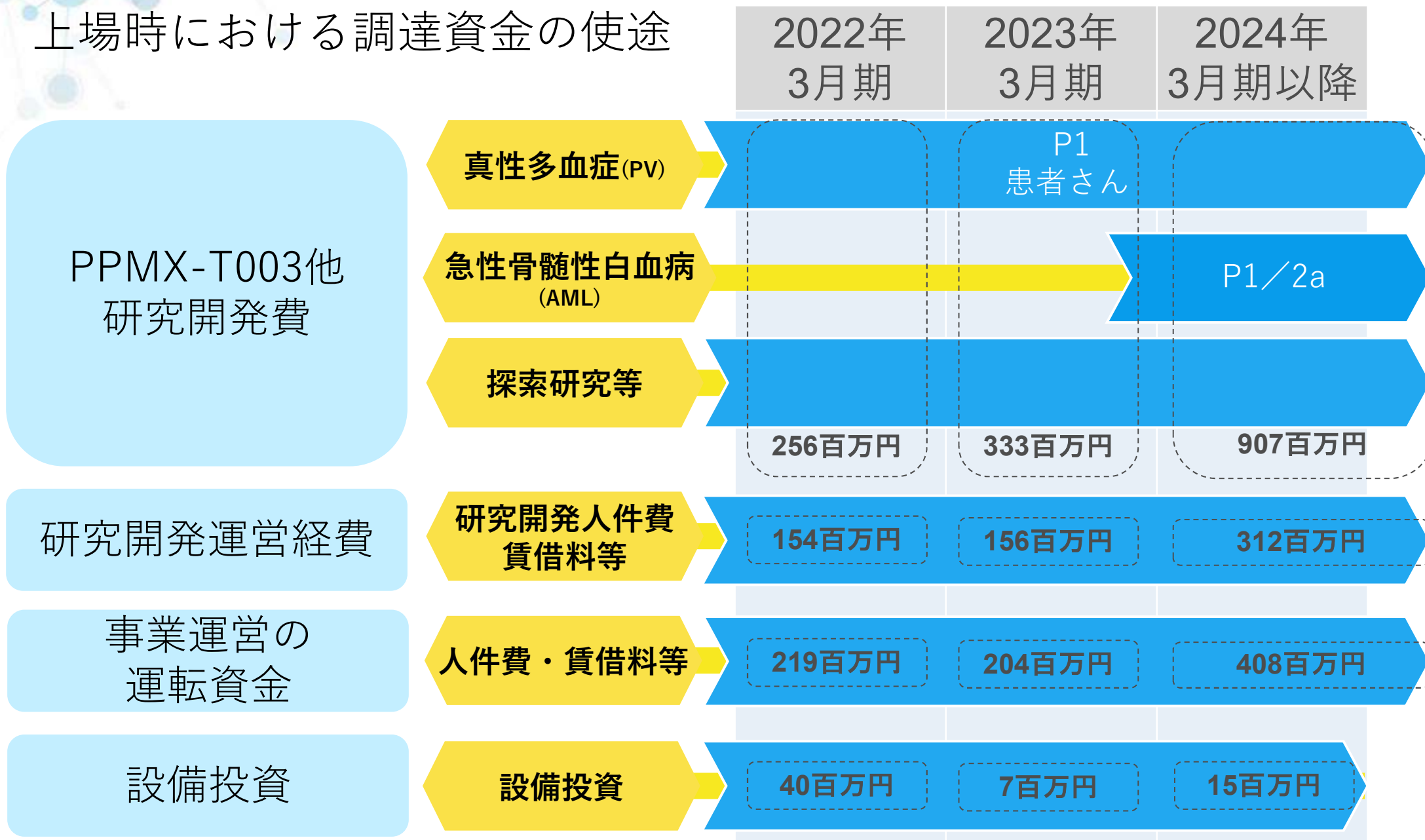
## (4) 進捗状況の開示



パイプラインの導出、導出済みパイプラインの次相試験の開始等、重要な進捗が生じた場合には、適時開示していく方針であります。

## (5) 資金使途

上場時における調達資金の使途



(注) 上記金額には、オーバーアロットメントによる売出しに関する第三者割当増資分（最大396百万円）を含んでおります。

# リスク情報

# 認識するリスク 1/2

項目	主要なリスク	顕在化の可能性	顕在化の時期	顕在化した場合の影響度	リスク対応策
医薬品の研究開発、医薬品業界 新薬開発の不確実性	医薬品開発の成功確率が低いこと、研究開発期間が長期間を要すること等により、投資回収額が回収できない可能性	中	中長期	大	当社の技術を駆使して、次期パイプライン候補の研究開発に取り組んでおります。
医薬品の研究開発、医薬品業界 競合	競合他所の有する医薬品候補物質の研究開発が、当社のもと同じ疾患領域で先行した場合、当社優位性が低下する可能性	中	中長期	小	先行競合品に対しては、異なる位置づけにあります。潜在的競合品に対しては、学会情報等から把握し当社品の位置づけを明確にします。
医薬品の研究開発、医薬品業界 外部委託先との連携	自然災害及び重大な感染症の流行等により、原薬の安定供給や適時なサービス業務を受けられない可能性	中	不明	大	コミュニケーションを密にして情報収集に努めるなどトラブルを回避するための措置を講じております。
事業遂行 特許	優れた技術が出現した場合、当社の特許技術が陳腐化する可能性	小	中長期	不明	新たな技術、次期パイプライン候補の研究開発に取り組み、新しい特許の獲得に取り組んでおります。 物質特許に加えて、薬剤の機能や治療用途と組み合わせた特許等の出願補強で当社特許を強化します。
	他社の特許・発明により、当社の特許が無効化する可能性	小	中長期	大	
	他国において申請した特許が取得・登録されない可能性 当該技術が利用される可能性	小	中長期	不明	
事業遂行 災害、感染症等の発生に関する不確実性	重大な感染症の流行等が発生した場合や、研究所の一時閉鎖等の不測の事態が発生した場合、研究開発が遅延する可能性	中	不明	不明	「緊急コロナウイルス対策方針」を定め、在宅勤務を実施するなど対応しております。

※ 有価証券届出書の「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しております。

※ その他のリスクは、有価証券届出書の「事業等のリスク」をご参照ください。



## 認識するリスク 2/2

項目	主要なリスク	顕在化の可能性	顕在化の時期	顕在化した場合の影響度	リスク対応策
パイプライン	開発が遅延または中止となる可能性	小	中長期	小	当社の技術を駆使して、次期パイプライン候補の研究開発に取り組んでおります。
PPMX-T001	契約の存続期間切れにより、想定した回収額を得られない可能性	大	短期	小	
パイプライン	開発が遅延または中止となる可能性	小	中長期	大	当社の技術を駆使して、次期パイプライン候補の研究開発に取り組んでおります。
PPMX-T002	契約の存続期間切れにより、想定した回収額を得られない可能性	小	中長期	大	
パイプライン	開発が遅延または中止となる可能性	小	中長期	大	現在は自社開発を行っており、広い疾患領域で適用可能性を検討し、開発遅延や中止のリスクを低減します。また、当社の技術を駆使して、次期パイプライン候補の研究開発に取り組んでおります。
PPMX-T003	開発の遅延及び追加試験による追加費用が必要となり、資金調達が必要となる可能性	小	中長期	大	

※ 有価証券届出書の「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しております。

※ その他のリスクは、有価証券届出書の「事業等のリスク」をご参照ください。

Perseus Proteomics Inc.

Email : [info@ppmx.com](mailto:info@ppmx.com)

TEL : 03-5738-1705

FAX : 03-3481-5760